

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ながの地域まるごとキャンパス事業
事業主体 (連絡先)	ながの地域まるごとキャンパス実行委員会 (事務局 長野市新田町 1485-1 もんぜんぶら座 3F 026-223-0051、npo@nagano-shimin.net)
事業区分	(1)地域協働の推進に関する事業 (4)安心・安全な地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	916,467 円 (うち支援金: 617,000 円)

事業内容

長野圏域をまるごと「キャンパス」ととらえ、市民活動団体や企業などが提案する地域活動プログラムに学生が参画する。学生は多数あるプログラムの中から選び、3日以上活動する。これらの活動では、学生の主体性を重んじており、活動を通じて、学生は地域にある人やモノの魅力を再発見し、自分も地域の一員であるという主体性を育むことで、地域への愛着醸成を目指す。

実施期間：2022年4月～3月

参加人数：150人（大学生16人、高校生134人）

プログラム数：35

事業効果

活動後のアンケートから

- ・地域活動を通して、地域のヒト・コト・モノの魅力を発見できた、社会課題に関心をもつことができたという学生が多くいた。
- ・今後も地域活動に参加したいという意思を持ったという学生が8割を占めた。
- ・活動終了後も、継続して団体の活動に参加し、自分が発案し企画運営する学生もいた。地域の将来を担う人材の育成につながっている。
- ・こうした取り組みが認められ、来年度から長野市の事業になることが内定している。

今後の取り組み

参加学生たちからは活動を通じて、「地域の課題に関心をもった」「魅力に気づくことができた」などの感想があり、一定の成果があった。一方、その学生個々が感じたことを、外部に伝える機会があまりなかったことは反省点でもある。学生たちが自らの言葉で地域の課題や魅力、地域活動の楽しさを伝えることができれば、本事業を通じて若い世代の地域への関心・参画が期待できるのではないかと。来年度以降は、参加学生が発信・運営にも携われる機会を増やしていくことにも注力したいと考える。



【活動先で農作業をする】

【目標・ねらい】

- ① 学生の地域活動への参加・参画
- ② 将来のUIJターンを目指した、地域への愛着心の醸成
- ③ 地域活動の担い手の育成

※自己評価【A】

【理由】

提案団体の広がりが予想以上にあった。またこれらの動きや報告会の様子を見て、来年度新たに長野東高校と文化学園高校は授業内で学校別説明会を実施することや県立大学と協働で説明会・報告会を実施する方向で決まっており、大きなステップとなった。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	松川河川敷 東日本台風災害からの復興の推進
事業主体 (連絡先)	旭ヶ丘地域づくり推進プロジェクト (須坂市旭ヶ丘 7-55 旭ヶ丘ふれあいプラザ内)
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業 (5) 環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード事業
総事業費	1,712,250 円 (うち支援金 1,355,000 円)

事業内容

- 高水敷・「松川四季の道」の原状回復と維持管理**
清掃・草刈り作業を年間9回実施。ボランティアは延べ153人参加し、景観回復に努めた。
- 高水敷・「松川四季の道」の整備**
専用倉庫の作製、休憩用ベンチの設置、散水機の整備等をボランティアで実施した。
- 小学生向け自然勉強会・河川敷芝生張付け**
10月28日(金)旭ヶ丘小学校児童40名(2組)、先生2名ボランティア18名が参加して自然勉強会を実施。また、芝張りを行い、最後は全員で張ったばかりのの芝に水まきを行った。

※9月28日開催予定だった「松川ウォーキングフェスタ」については、新型コロナウイルス第7波感染拡大を鑑みて中止した。



【自然勉強会・河川敷芝生張付け】

【目標・ねらい】

- ふるさとを愛する心を育み、ふるさとの景観を大切に作る心の醸成
- 東日本台風災害からの復興の推進
- 「松川四季の道」の利用者を増大

事業効果

- 専用倉庫・休憩用ベンチなどを設置。特に専用倉庫は地域整備に必要な物品を一元管理することにより、作業がスムーズとなり、長年の課題でもある次世代への引継ぎもより容易となったと思われる。
- 河川の清掃・草刈りの参加者については、新型コロナウイルス第7波感染拡大の影響がありながらも、前年以上の参加者が確保できたことはボランティア活動に対する理解が深まったと判断している。
- 旭ヶ丘小学校児童と協働による自然勉強会・芝生張付け作業については、次世代を担う若年層へのアプローチとして企画したが、天候にも恵まれ、こちらの想像以上に興味を持ち、一所懸命張付け作業を行い、楽しそうに水まきを行っていた。児童たちの将来に、そして記憶にどのような形で影響があるのか計り知れないが、児童たちの「ふるさとを愛する心」の醸成に寄与でき、今後もこの様なアクションを継続すべきと強く感じた。

事業効果

周辺の環境維持管理については、今後もボランティア参加者の増大。若返りに努め、誇りあるふるさとの景観維持に努力する。芝生部分の維持拡大についてはプロジェクト内で検討を続けていきたい。「松川四季の道」の利用者は今後も増えることが予想される。周辺住民・須坂市民への認知度拡大を図り、地域住民・市民の健康のために貢献したい。

※自己評価【B】

【理由】

- 「松川ウォーキングフェスタ」の中止が何としても残念
- 霊園駐車場の階段敷設、「四季の道」のパンフレット作成など須坂市との協調体制は大きな成果
- 「松川四季の道」の利用者が確実に増えている。
- 芝生張付けの成果「松川オアシス」に大いに期待したい。

(別記様式第12号) (第3の8関係)

【高水敷・「松川四季の道」の原状回復と
維持管理・清掃・草刈り作業】



【休憩用ベンチ】

【備品管理用物置の設置】

【散水機の整備】



【自然勉強会】



【芝生張り付け作業】



(別記様式第12号) (第3の8関係)

(長野地域)

令和4年度 地域発元気づくり支援金事業総括書

事業名	農道協働整備事業
事業主体 (連絡先)	千曲市 (千曲市経済部農林課農村整備係 026-273-1111 (内線 3273))
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	4,565,231円 (うち支援金: 2,282,000円)

事業内容

地域で策定された「地域づくり計画」に基づき、地域住民の参加によるまちづくりを行う事業を支援する。

本事業は未舗装の農道を地域住民の手作り作業により舗装を行うことで、維持管理の軽減と荷痛み防止による農地の高度利用を促進し、住民と市がともに手を携えて進めるまちづくりを目指す。

市でコンクリート舗装の資材と、路面整形用の重機を手配し、地域住民の参加により実施しました。



【農道整備】

- ◇千本柳区 (C o n 舗装)
延長L=66m 参加人員 15人 (地域住民)
- ◇大田原区 (C o n 舗装)
延長L=94m 参加人員 15人 (地域住民)
- ◇倉科区 (C o n 舗装)
延長L=50m 参加人員 15人 (地域住民)

【地域住民が参加し、作業を進めます。】

【目標・ねらい】

- ①農道の維持管理の軽減
- ②農地の高度利用
- ③住民参画によるまちづくり

事業効果

地域住民自らが「地域づくり計画」を作成し、住民と市が共に課題解消を進めることで、住民参画によるまちづくりの意識高揚と経費の節減につながりました。

今後の取り組み

今後も、市と住民との協働によるまちづくりを積極的に推進します。

※自己評価【 B 】

【理由】

農道を舗装し維持管理の軽減と荷痛みを防止することで、農地の高度利用を促進することは元より、「住民参加」による住民と行政が共に手を携えて進めるまちづくりの推進が図れた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域のみちづくり支援事業
事業主体 (連絡先)	坂城町 (0268-82-3111)
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	1,487,321 円 (うち支援金 : 743,000 円)

事業内容

農道・林道については、地域の生活を支える道として地域から補修・改修の要望が多く、以前から地域住民との協働作業により、農林道整備を実施してきた。

町では、要望のあった農林道について、事業規模、内容等から地域との協働作業が可能な箇所について、設計を行い、これをもとに原材料、所要作業、必要な重機等を算出、地域へ原材料を支給するとともに、舗装作業等の施工のサポートを実施した。

●林道網掛線舗装工事 L=100m W=3.0m



【舗装工事風景】

【目標・ねらい】

- ①地域に密着した道路の協働作業による整備
- ②地域協働活動の推進
- ③施工技術の継承

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

地域住民と受益者が自ら施工することで、地域の財産として愛着と責任を持ち、大切に管理していく気運の醸成が図られた。

施工に際し、ノウハウを持ったベテランから次の世代へとその技術が継承されるなど、地域の連携感がより一層育まれた。

※自己評価【B】

【理由】

予定区間の補修・改修を完了施工も安全に行われ、地域で利用する道路を住民自ら整備することで地域の連携を深め、協働の意識を高めるねらいを達成できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後も地域に必要な農林道の協働による整備を通じて地域協働活動の推進と施工技術の継承を図るため、積極的に原材料支給等の地域への支援を実施していく。

引き続き地域のニーズを踏まえながら、効果的な支援を図りたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	よろずぶしん事業
事業主体 (連絡先)	小布施町役場 建設水道課 都市・建設係 (026-214-9105)
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	2,929,520 円 (うち支援金: 1,453,000 円)

事業内容

従来から行われてきました、地域住民による道路や水路の清掃などに加え、道路・公園・水路等の軽微な補修等の「よろずぶしん事業」を支援することにより、地域活動事業の推進・拡大を図る。
支援内容は、原材料の支給 (U字溝のグレーチング、碎石等)



【水路改修事業】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 水路改修事業
U字溝のグレーチングを支給し、地域役員さんの出労により設置を行い、水路への転落防止を図るとともに、副次的に落ち葉等が水路へ入るのを防ぐことができ、水路を良好な状態に保つことができた。

【目標・ねらい】

- ① 地域づくりへの積極的な参加を図り、住民と行政が一体となった安全で安心な活力ある協働のまちづくりに寄与する

※自己評価 【 B 】

【理由】
予定していた効果が得られた

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

地域の協働事業に対して長野県の支援があるということで、地域でできる事業は地域で行うという自主的な活動が盛んになる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	おてんま支援事業
事業主体 (連絡先)	高山村役場建設水道課建設係 電話番号：026-214-9297
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業 (4) 安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	2,791,178円 (うち支援金：1,860,000円)

事業内容

従来から地域住民により行われてきた道路や河川清掃などの「おてんま作業」に加え、道路・河川・水路の軽微な補修、景観整備事業等の「おてんま作業」を支援することにより、地域活動事業の拡大を図る。

支援内容としては、原材料の支給（道路・水路の補修材や環境整備のための資材、砕石など）。



【 牧区おてんま支援事業】

【目標・ねらい】

- ①住民が主体的に地域づくりを行う。
- ②住民と行政が一体となった活力ある協働の村づくりを進める

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

地域づくりへの積極的な参加促進により、住民と行政が一体となった活力ある協働の村づくりに寄与できた。

※令和4年度実施団体：6団体（赤和区、久保区、なかひら区、牧区、天神原区、山田牧場区）

参加人数：約51名

※自己評価【 B 】

【理由】

地域づくりへの積極的な参加と、住民と行政が一体となった活力ある協働の村づくりが推進できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後、さらに協働の村づくりを推進するため、活動を定着させていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	住民主体のみち直し事業
事業主体 (連絡先)	信濃町 (建設水道課 管理・国土調査係) Tel.026-255-6821
事業区分	(1)地域協働の推進に関する事業 (4)安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	1,503,238 円 (うち支援金: 1,000,000 円)

事業内容

町において原材料(砕石・生コンクリート)を地域に支給し、住民の労力により、町道の維持管理を行う。

工事か所: 町内14地区の町道等

工事内容: 未舗装道路の敷砂利整備、未舗装道路のコンクリート舗装等



【富ヶ原組】

【目標・ねらい】

- ①良好な生活環境の保全
- ②住民協働のまちづくりの推進

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

当該事業の対象となる町道は、農業用としての利用率が主なため、農業生産の向上と安全確保が図られる。また、業者発注では割高となる工事が大幅なコスト削減になる。

地元住民が作業することにより、細やかな整備ができ、災害時等には現状を把握していることにより、復旧に向けての目安ともなる。

地元住民がともに汗を流すことで、より一層のコミュニケーションが図られ、地域の“げんき”として反映されることができた。

※自己評価【A】

【理由】

地域住民がともに汗を流すことで、より一層のコミュニケーションが図られ、地域の“げんき”として反映されることができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

自助・共助の考えにより、住民が主体的に行う地域づくりを進めるため、住民に原材料を支給し、道路・水路の維持修繕を行い、愛着心と責任を持つことで、地域の財産としての意識を高め、良好な生活環境を保全することを観点に継続して実施したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	原材料支給事業
事業主体 (連絡先)	飯綱町(建設水道課 維持管理係) 026-253-4766
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	5,128,607円(うち支援金:3,000,000円)

事業内容

町が生コンクリート等の原材料を地域に支給し、地域住民及び受益者が自ら協働して道路等の維持補修工事を行う。



【協働で行う生コン作業】

【目標・ねらい】

- ①住民協働による住環境整備
- ②地域協働によるまちづくり推進の機運の醸成

事業効果

地域住民が自ら施工することで、地域の財産としての愛着と責任を持つようになり、大切に維持管理していく機運の醸成が図られた。

事業参加者の世代を超えたコミュニケーションが図れ、地域の活性化につながった。

業者への発注工事では費用が割高になるが、当該事業により大幅なコスト削減やきめ細やかな整備ができた。

※自己評価【B】

【理由】

自らの施工により、必要な箇所を優先的に整備できるほか、地域の現況を把握することで、今後のまちづくりに寄与できた。

今後の取り組み

地域住民の相互協力により、地域に道路が完成したことは大きな成果であり、次年度以降も支援金事業を活用しながら、必要箇所の整備に取り組んでいきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	飯綱町課題解決型アイデアキャンププロジェクト
事業主体 (連絡先)	飯綱町 (企画課) (026-253-2512)
事業区分	(1)地域協働の推進 (6)産業振興、雇用拡大 (エ 商業の振興)
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,698,400 円 (うち支援金 : 1,358,000 円)

事業内容

フィールドワークで町を知った上で、ワークショップを実施し、強みと弱みを理解する若者を増やす。また、1泊2日で行う、連帯感や絆の強化からより良いアイデアが期待できる、合宿型の「課題解決型アイデアキャンプ」を実施し、そこで出された町の課題解決につながるテーマに沿ったプロジェクトを、地域と一緒に実地につなげていく。



【アイデアキャンプの様子】

事業効果

若者が主体となって地域課題の解決に取り組むことで、若者が今まで関わりがあまりなかった地域の活動に積極的に関わる機会が創出された。また、若者が地域づくりに関わることについて、自分たちで「できる」を体験できた。

意欲ある若者が主体となって、「自分が住みたいまちづくり」を進めることで、あらゆる若い世代が「来たい」、「住みたい」、「帰って来たい」と思えるまちづくりの実現が期待できるものとなった。

広報紙等で参加者募集・事業紹介したことにより、当事業を広く発信することができた。

【目標・ねらい】

- ① 若者の発想による地域課題の解決方法の提案
- ② 若者の主体性の醸成や「共動」による地域活性化

※自己評価 【 B 】

【理由】

町全体に視野を広げ、広く深く話し合う場づくりから、「つくりたいまち」に近づく個々のアクション = 「種を植えていくこと」と「やりたいこと」につなげ、新たな価値の創造が期待できるものとなった。

今後の取り組み

今回出された企画は令和5年度も引き続き実施し発展させていくこととしている。

また、令和5年度の若者会議については、令和4年度の継続と、町としての課題、例えば駅前での活性化や子育てしやすい環境づくり、町の観光などのテーマを設定し、より地域での必要性と実現可能性が高いプロジェクトの実現を目指す。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	みんなで道こせ事業
事業主体 (連絡先)	上水内郡 小川村 (総務課村づくり係)
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	2,334,660円 (うち支援金: 1,360,000円)

事業内容

住民自らが作業を行い、村が資材提供等の支援を行う協働方式により、以下のとおり道路整備を行った。

No.	地区名	L:延長(m)	W:幅員(m)
1	夏和 (鴨之尾)	182	2.7
2	露畑 (露畑)	81	4.1
	合計	263	



【夏和地区 (鴨之尾) での作業】

事業効果

○**原材料高騰によりコンクリート価格が 25%上昇したが**、村内2地区、総延長263mの道路整備をすることができた。

○住民と行政が共通の目標に向かって取り組むことにより「協働の村づくり」に向けた意識の向上が図られた。

○延べ62人の住民参加があった。

今後の取り組み

地区からの要望も多く、住民の参加意欲が高い事業であり、地域づくりへの参加意欲を最大限に引き出せるよう、事業を継続して実施する。

なお、実施個所の選定にあたっては、特定の地区に集中しないようバランスに配慮する。

【目標・ねらい】

- ① 村内2地区で事業実施
- ② 参加住民延べ62人
- ③ 総延長263m

※自己評価 【B】

【理由】

高齢化が進んでいる当村において協働の作業が年々実施困難な状況であるにもかかわらず、期待以上の参加人数が得られている。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある